



束縛連鎖

R18

三日月…私は
明日、遠征に行く
事になった

今回の遠征場所は
かなり離れた所なので
丸一日かかるらしいので

ふむ…

！

これ小狐
邪魔をするな
戦歴を書けぬ

のし

そんなものは
後にすれば
良からう

明日からまた
しばらく会えないと
いうておるのに…

ん…
寂しいぞ

私の本丸に居る時は
お前が遠征に行き
すれ違つてばかりじゃ

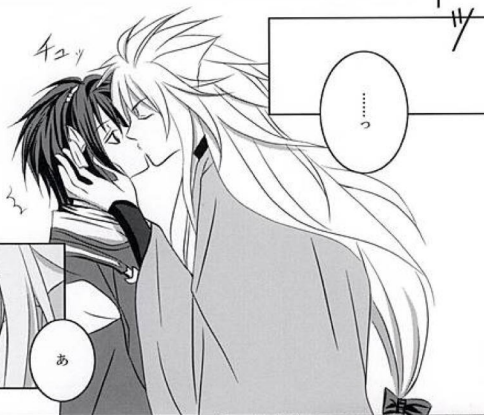
寂しいのは
私だけなのか？

三日月は
寂しくはないのか？

三日月…



何を…





ならば殺しがれば
良い
そして私の事だけ
考えていろ…!



小狐丸…



隙を狙う輩が
おしかけてくる
であらう

美しいお前の事だ
私が不在とあらば



お前はいつも感情を
押し殺すから
私は不安が消えない



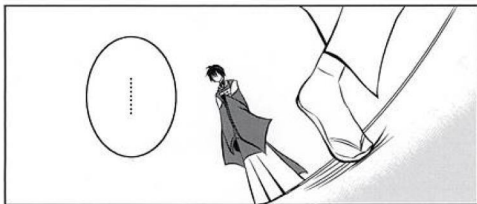
そんな壁を
乗り越えて、俺に
触ってくれるのは

それははっ
それはない
俺は皆から少し
敬遠されている

天下五劍の
壁は厚い

お前だけだよ
小狐丸

ふらりとどこかへ
行つてしまえば
不安になる





はははっ
君は見た目に寄らず
素直なんだね

もう離れ離れに
なつてはいけないよ――



けど、以前の君は
もつと凍りつくような
瞳をしていた――



今はそれが消えて
とても親しみやす
なつたよ

小狐丸の愛情が
君を変えたのかな？

…かもしれぬ



ああ…
外見は以前と
変わらないね



君は美しくて
誰も寄せ付けない
強さがある

それは今も昔も
変わらない



よし、これで
終わりがな

はあ……

たった一日
離れてるだけなのに
すでに小狐丸が恋しい

自分がこんなにも
寂しがり屋だとは
思わなかった……

「タタッ」

！

あの柔らかい髪に
触れたい

あの……っ
で鳴狐を見ま
せん
でしたか？

ぎゃっ！

ギョッ

モフモフ！
おおおっ

うーむ……
あまりモフモフ
してないな

うま……

ぎええええっ!!
お放し下さい
三日月様……っ

小狐丸様に
噛み殺されて
しまいます……!!



遠征より戻りました





……っ!?



まさか
何か抱いたのか

ど、どうして
三日月から別の
生き物の匂いが……!!



ザッ
ッ……



……何て事だ



あ……
さつき部屋に
鳴狐の御供が
からい込んできた

興味本位で
抱き上げて
みたんだが……



え……?

私が
会えなくて寂しい
思いをしている中
お前は他の男(男)と
浮気を……!

えええええっ!?

言いわけなど何も
聞きとうない
私はめし様の所に
行ってくる!

こ、小狐丸、
それ本気で……

何も聞きとうない!

小狐丸……

え……
冗談じゃなくて
本気なのか?

ち、ちよつと
待て

浮気なんかして
ないぞ
それに相手は小さい
狐ではないか……!

三日月の顔など
しばらく見とうない

……

本気か

——!

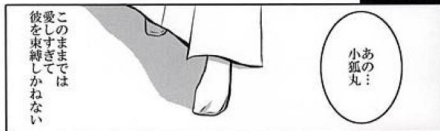
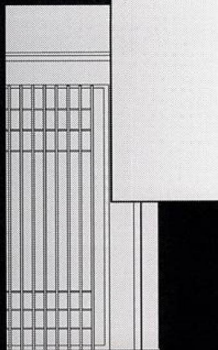




それでも……
三日月の事になると
偉かなズレも許せなく
なってしまう

こんな気持ちは
初めてだから
どうして良いのか
分からぬ

……



このままでは
愛しすぎて
彼を束縛しかねない

あの……
小狐丸……



ん……
俺はお前とキスギス
するのは嫌だから
仲直りしたい

浮気してないけど
そう見えたのなら
謝る……



寝巻姿!!

話を……聞いて
くれないか



何じゃ？

色っぽいな
かわいいな
今すぐ抱きたい!



はあ……



冷静になって
考えてみると
浮気など
ありえないな

あの三日月を
私以外が相手に
出来るわけがない



—
寂しい

…嫌だ
今夜はここに
居る

私の部屋に居て
どうするんじや？

居たいなら別に
構わないが…
私は疲れたから休むぞ

三日月…

小狐に冷たく
されるのは
嫌だ

…じゃあ
俺も一緒に休む

お前の側に
居たい



声が優しくなった！



ああっ！
もう限界じゃ！

野生を隠して
紳士的に振舞って
いるというのに…！
全く！

!?



お前を見ていると
抱きたくなって
しまうから

今宵は顔を見ずに
過ごそうと思った
のにな



確かに
お前は姫より
面白いなくて
面倒じゃ

三日月よ…



困った姫様じゃ

俺は姫じゃない！



私だってお前に
触れるのは初めて
だから

分からない事
ばかりだ！



俺は経験も知識も
無いから…よく
分からぬ



小狐…
俺を抱きたい
のか？

ああ…限界じゃ
でも三日月が
嫌がるなら仕方ない



ああ…三日月の匂いと
温もりと感触



緊張しなくても
よい



ん…触られると
少しむず痒い

…我慢しろ



だから三日月の
体を調べさせてくれ



むず痒くても
少し我慢しておれ



そのうち
「気持ちいいと
言わせてやろう

ん……



綺麗な肌だ……
底をつけるのは
勿体ない



あ……

三日月!
大丈夫か?



……っ

小狐の匂いと
体温を感じる

ハァッ



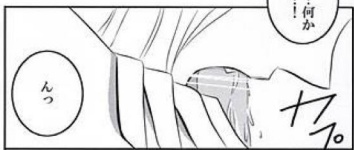
どうした?



わっ!

愛らしい奴じゃ
全く







え…っ？
あ！ああ—っ

朝まで熟睡とは
さすがじゃ
三日月よ

目が覚めたか？

あ、あの

すまん…
えっと昨日は

……

何もしていない！
気絶した相手を
抱いてもつまらぬ





お前は私のものだ

誰にも渡さない



優しい…



でも三日月の
発情してる匂いと
味は覚えたぞ!

変態っ

すまない…
怒っておるのか…?

怒つてなどおらぬ
あのまま抱いて
しまおうかと思つたが



俺を求めてきてても
今と同じ事を言つて
くれるのか?

小狐…もし
お前の癖ついている
「めし様」が

お前の心と体が
私に慣れるまで
待つ慣にする…
愛ゆえに



ただ…お前を
話しているのなら
話は別だ

誰にも…
渡す気はない



…めし様がお前を
大切にしているのは
知つている



手荒に扱うより
よほど良いと思う

そんな事
より

私はお前を
抱きたくてずっと
お預け状態じゃ
なんとかしてけれ

ぬし様に申請してきた
しばらく休みが貰えたぞ

遠征も出撃も
三日月と一緒に
してくれるそうじゃ

ん…
努力する

慣れてきたら…
抱いても良いぞ

明日から一緒に
居られるから
すぐ覚えられるぞ

ま…毎日

や、やっぱり
考えさせてくれ…

却下！

そうか！
じゃあ今日から
毎日練習じゃ

え？

小狐丸×三日月宗近

